

一緒に年を重ねていきたい

わたしの「一生もの」

幼いころ、祖父が大事にしていた葉巻入れや、母が祖母から受け継いだ帯留めに抱いた憧れの気持ち。モノが無数にあふれる今、何十年も共に過ごせる本物と出合えば、こんなに幸せなことはありません。時を超えて人々に愛され続ける「一生もの」に値する品々を、eyecoが厳選してお届けします。

Editorial&Writing/Emiko Euzuki Photography/Kangoro Nakagawa Styling/Arisa Mizani Coordinate/Yasuko Ueno

eyecoの考える「一生もの」とは

耐久年数は80年以上。一度買ったら、一生使い続けられるもの。

使い込むほどに深い味わいが出て、年を重ねることが楽しいもの。

製造方法にオリジナリティがあり、手作りの温もりを感じられるもの。



Vol.1 ペローニのコインケース

愛らしい姿を作り出すのは
500年変わらない手仕事

丸みを帯びた形と艶やかな色。

何より縫い目がなく、滑らかな一枚革に見えるのが印象的です。この、宝石のように端正なコインケースは、イタリアのフィレンツェにあるペロニ社（ペロニ兄弟が、下町に小さな工房を興したのは56年、今はビエロの息子たちも加わり、500年前のルネサンスから続く革工芸技術を守り続けています。

原料の革は、若い雄牛の皮をフィレンツェ郊外のサンタクロッチェでなめした最高級品。一度濡らして乾燥させた後、収納部とフタに裁断し、それぞれ木型に被せて針でとめ、8時間乾燥させます。次に熱テコで曲面を滑らかに整えて、のりで接着。中に金型を入れて槌で叩いて継ぎ目を消しながら仕上げていきます。染色して丹念に磨き上げたコインケースは、まさ

ずっと前からあるみたいに 手の平にしっかりと馴染む

一枚革そのもの。槌の加減で形を決めるため、ひとつひとつの形は微妙に違いますが、フタはきつちりと閉まって緩みがありません。「伝統の技術で作られたものは丈夫、よい革と植物染料を使っているの、日焼けや傷も使い込めばいい味になります。化学染料だところはいきませんよ」とビエロ氏。コインケースを使い出すと

不思議と身軽になれる！

ルックスはもちろん、使い勝手も上々。フタに中身を広げられるから小銭が使いやすく、ジャラジャラ貯まることもなし。小銭とお札を分けることで太った財布がスリムになったり、お札を持たずに近所へ買い物に行けたりするのは、やってみるとかなり快適です。ペロニの中でも薄型のこのモデルは、ポケットに入れて美しく、小さなバッグにもすっと収まるのがうれしい。とにかく一緒にいれたいだけ、愛着の増す一品です。



男にて、社長のビエロ氏（左）と、「父が簡単そうにしていることも、実はみんな難しい、修行は大変です」という、次男のマウリッチオ氏（右）。



陳列棚には、カラフルなコインケースがずらり。ペンケースや写真立てなど、他にもさまざまな革の小物が並んでいました。



さらにナイフでそいで薄くします。この作業によって、ぴったりと接合できるように。



なめした革をコイン収納部とフタに裁断。重ね合う接合部分を機械でそいで薄くします。



継ぎ目の部分に力をこめて当ててツヤを出し、さらに空気にさらしたら完成。



木型と熱テコで成形し、収納部とフタを接着。槌で叩いて圧着させたら、色を染めます。



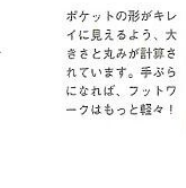
PERONI コインケース

種類：①ブラック、②ナチュラル、③ピンク、④ブルー、⑤ブラウン
※⑦赤：ペロニ社
※⑧茶：ペロニ社
※⑨黄：ペロニ社
※⑩紫：ペロニ社
※⑪緑：ペロニ社
※⑫白：ペロニ社
※⑬黒：ペロニ社
※⑭赤：ペロニ社
※⑮黄：ペロニ社
※⑯紫：ペロニ社
※⑰緑：ペロニ社
※⑱白：ペロニ社
※⑲黒：ペロニ社

¥9,000(税込¥9,450)
08-TC-001



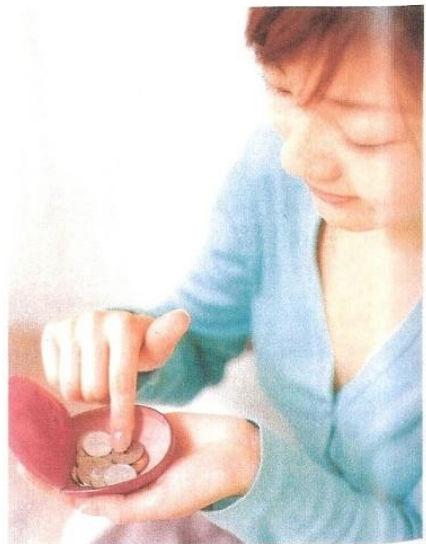
オフィスランチャ、小さな買い物に出かける時は、札入れを持たず、コインケースひとつで身軽に。



ポケットの形がキレイに見えるよう、大きさと丸みが計算されています。手ぶらになれば、フットワークはもっと軽々！



家では大切なネックレスやピアスを入れて。ちょっと上質なアクセサリケースとしてもお助めです。



片手で持って手前にはけるだけで、中のコインを全部フタの上に出すことができるから、敵えるのもラク。もう、レジの前であわてることもありません。

通販のお申込みは、電話0120-115-173、その他は巻末の通販ガイドをご覧ください(357P)
eyecoマーク ①=自然 ②=再利用 ③=安全・健康 ④=長期使用 ⑤=資源 ⑥=環境・人 ⑦=不満解消 ⑧=気持ち(詳細は10P)